



令和4年度 第2回 草津市いじめ問題対策連絡協議会

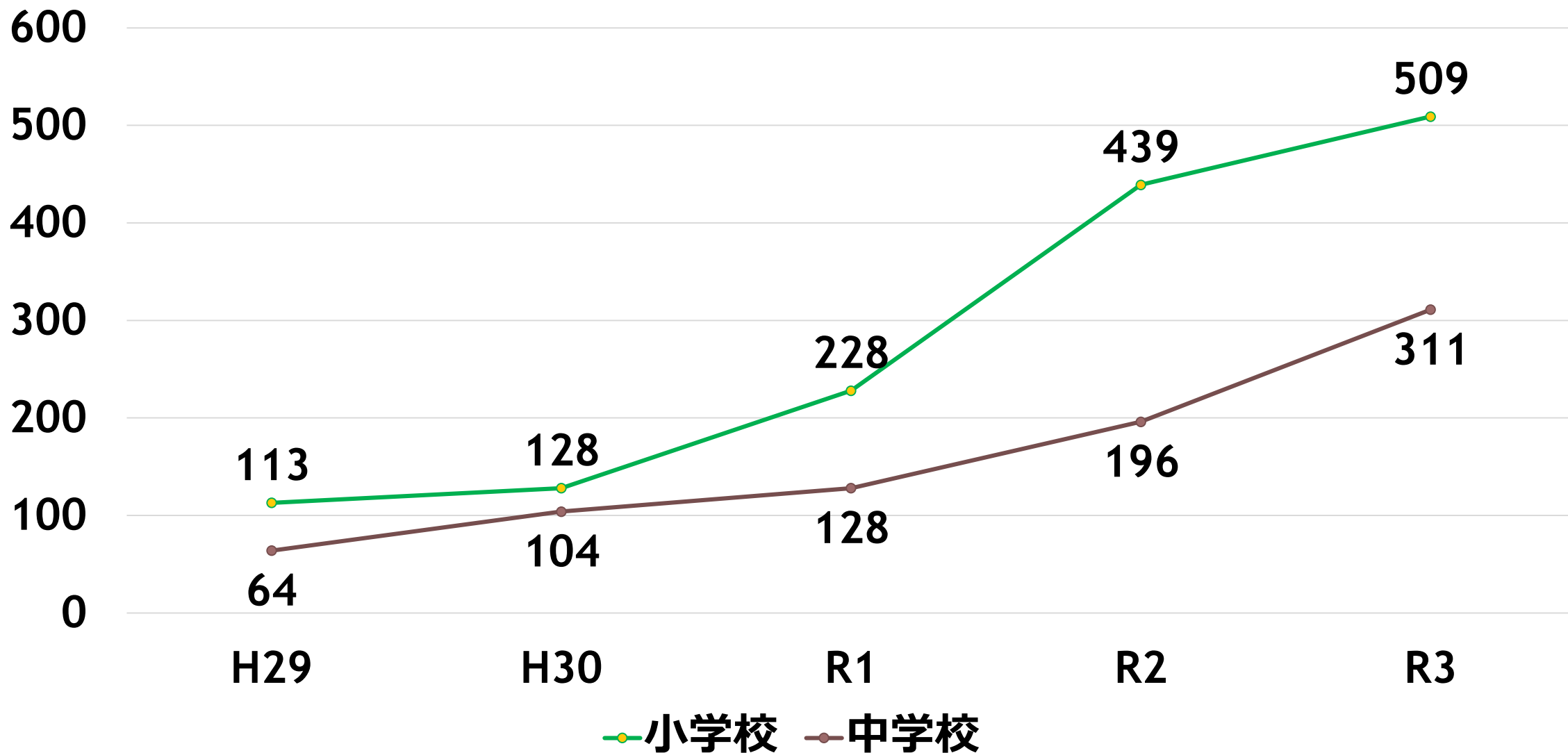
令和5年2月14日（火）
10時00分～
市役所6階 教育委員会室

討議の柱

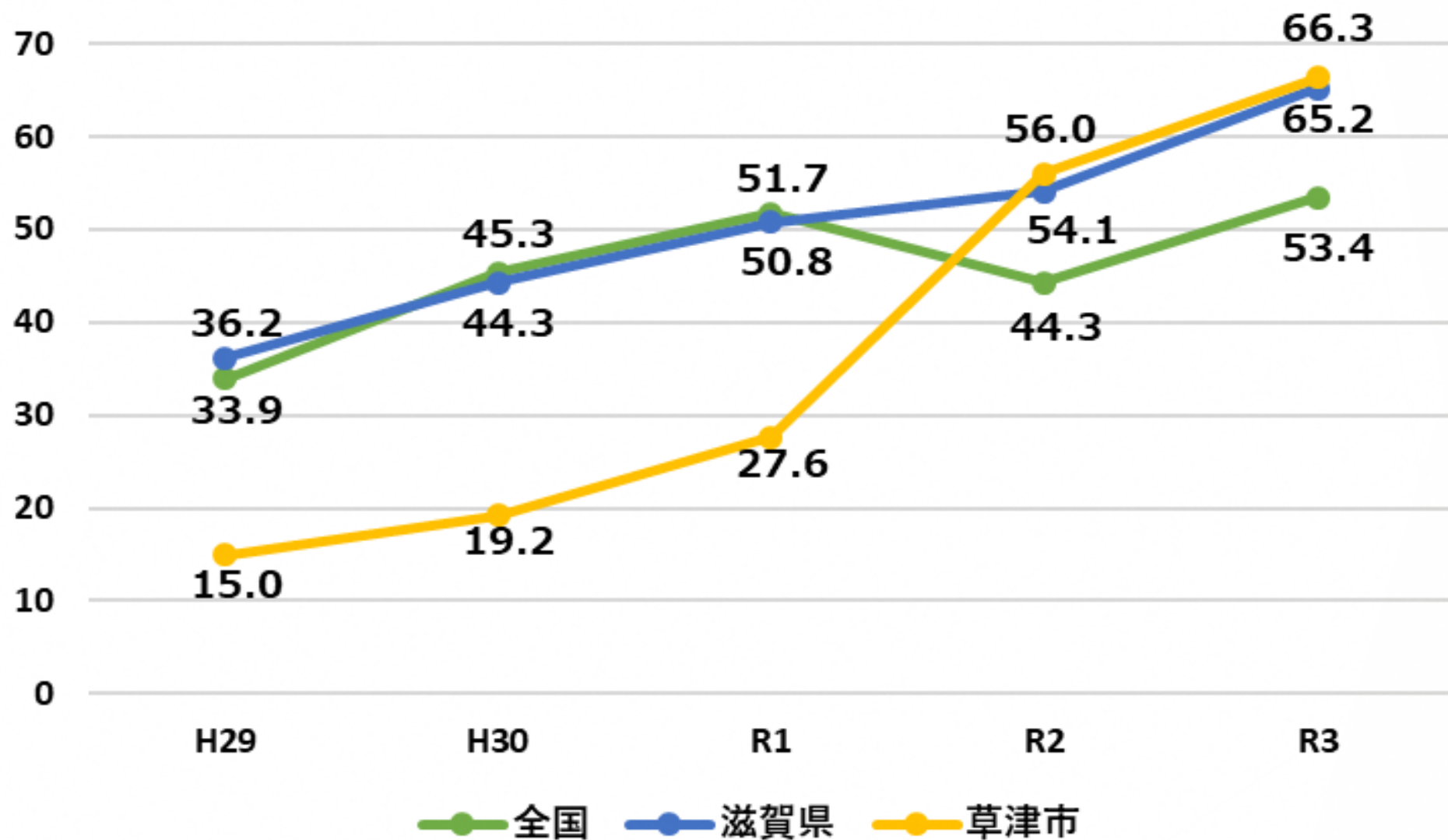
- ① 学校の初期対応力の強化に向けて
- ② 子どもの主体性のさらなる向上（未然防止）に向けて

討議の柱①について

草津市立小中学校 いじめ認知件数（件）



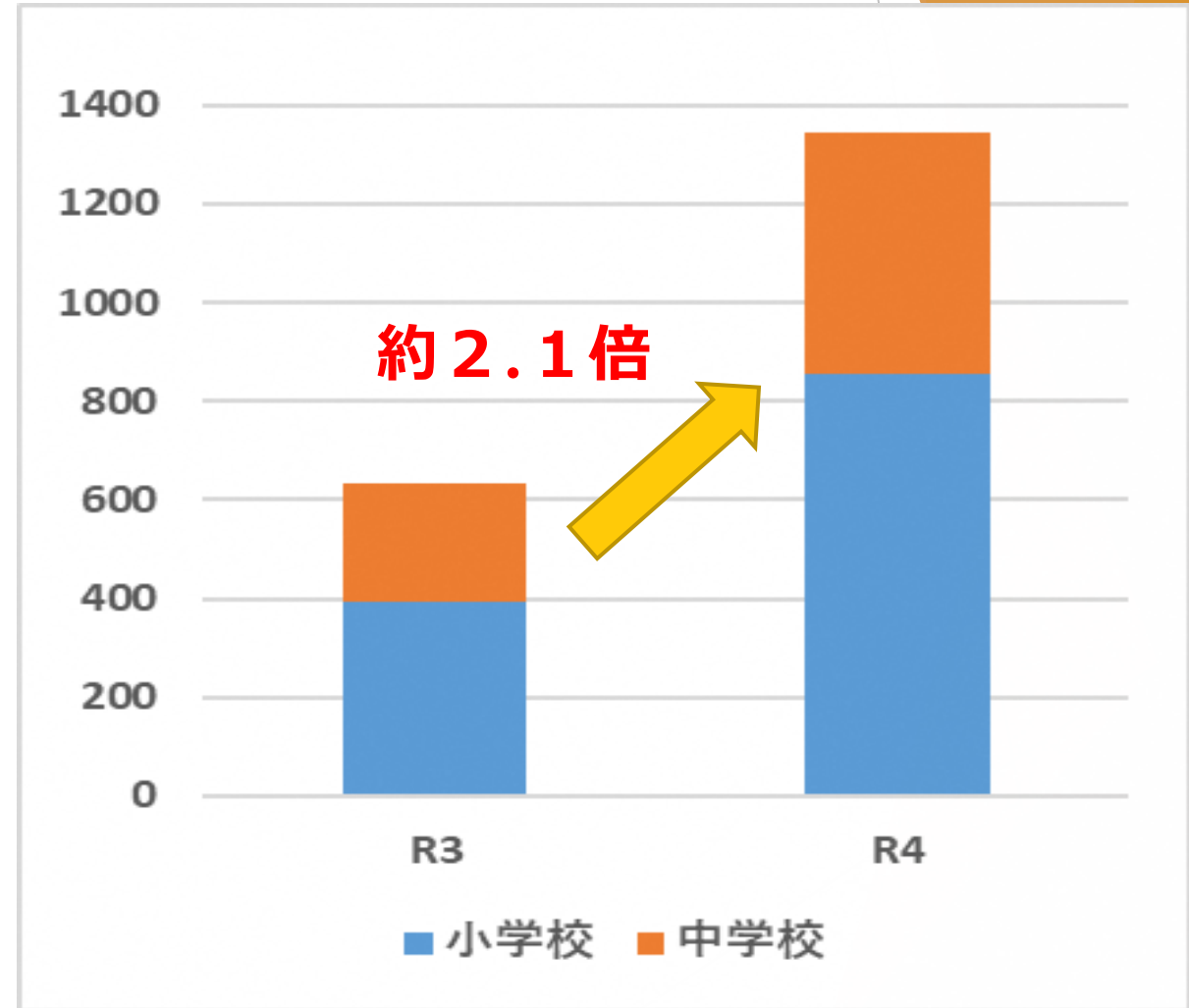
国・県および草津市のいじめ認知件数（1,000人率）



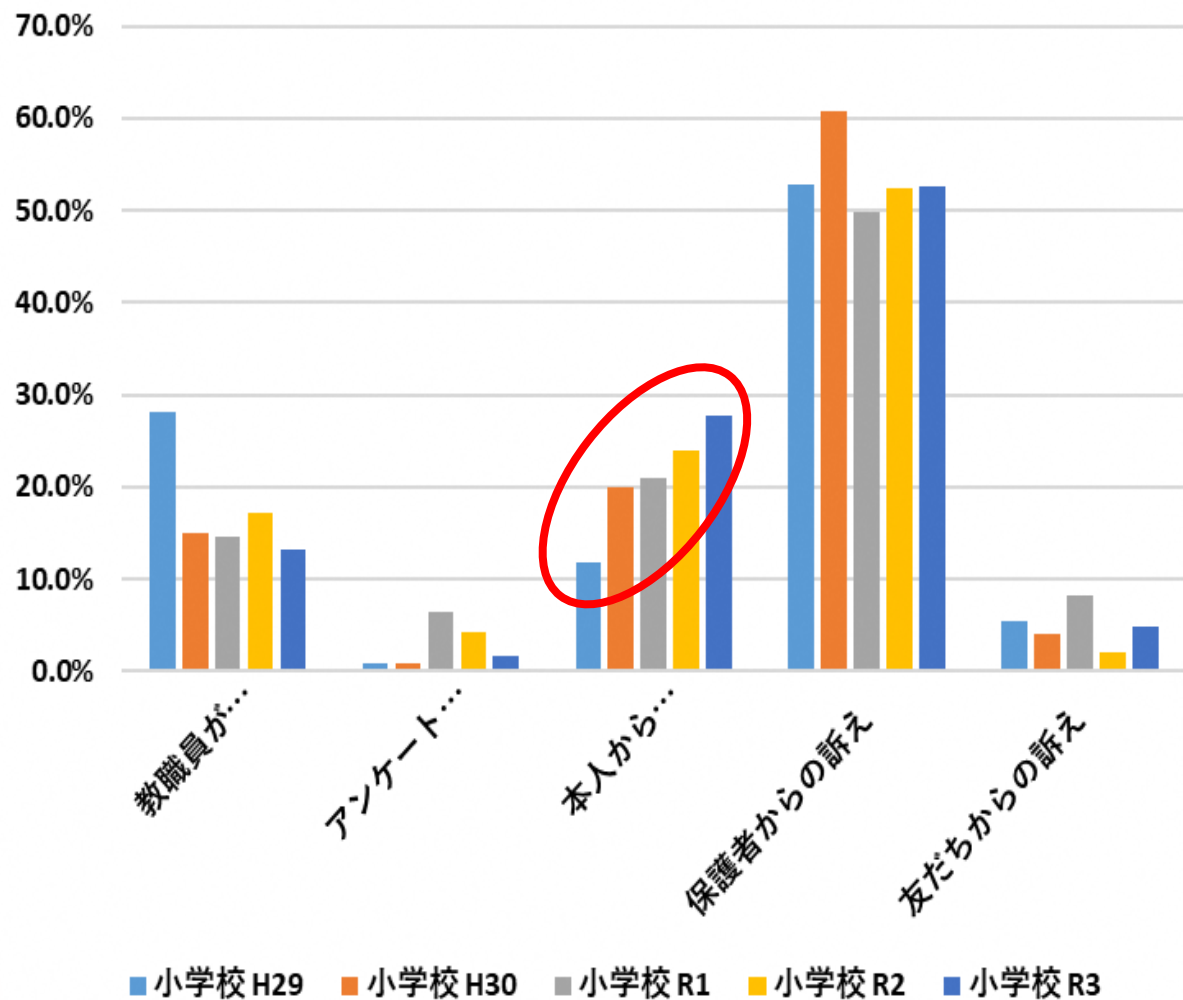
児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より

草津市立小中学校 いじめ認知件数 R3-R4 4~12月の比較 (件)

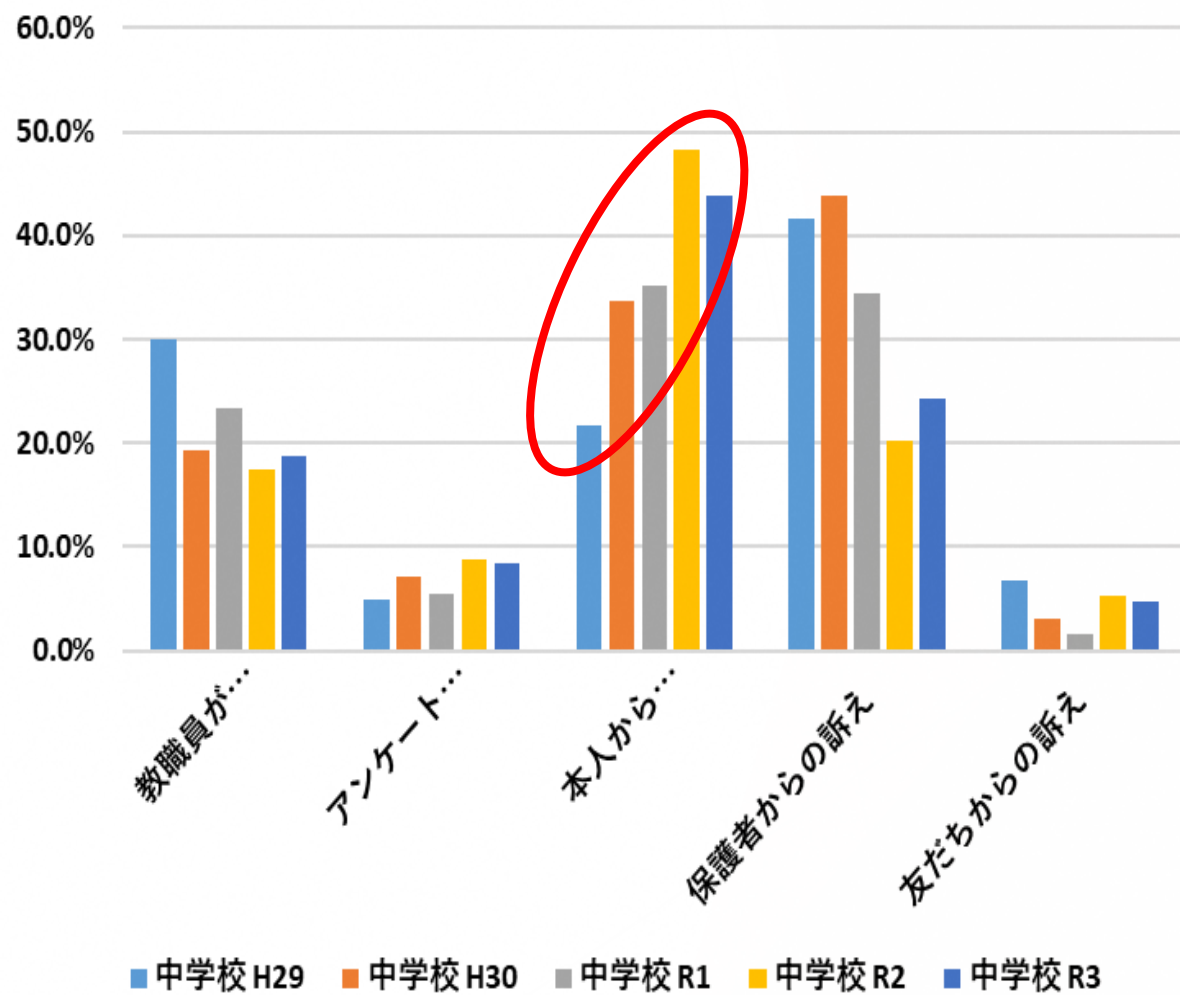
| | R3 | R4 |
|-----|-----|------|
| 小学校 | 392 | 856 |
| 中学校 | 243 | 490 |
| 合計 | 635 | 1346 |



小学校いじめの認知方法（H29～R3）



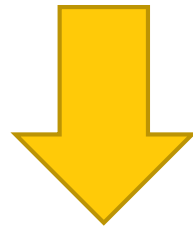
中学校いじめの認知方法（H29～R3）



認知件数が増加することについて


- ▶ 「仲間はずれ、無視、陰口」された経験がある…9割
した経験がある…9割

(国立教育政策研究所生徒指導・進路指導センターいじめ追跡調査2013－2015)



- ▶ 積極的にいじめ認知していく必要がある
認知件数が増えることについて、文部科学省も肯定的に評価
「いじめを初期段階のものも含めて積極的に認知し、その解消に向けた
スタートラインに立っている」

認知件数増加に関わる考察

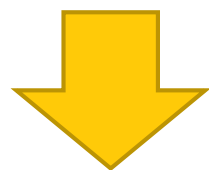
- ▶ **子どものSOS発信力の高まり**
 - ⇒ 本人が相談しやすい雰囲気づくりが進んだ
子どもによるいじめ防止の主体的な取組の成果
 - ▶ **学校の認知力の向上**
 - ⇒ 教職員のいじめ問題への理解が進み、軽微な事案まで積極的に認知するようになった
- 
- 認知件数の増加に伴い、膨大ないじめ事案への対応が必要
 - ⇒ **初期対応力の向上がより一層必要**

第1回連絡協議会より

- ▶ 認知力向上の一方で、**初期対応のミスで問題がこじれる場合が散見される。**



- ▶ 学校現場の初期対応のスキル向上が必要



マニュアルの必要性

次年度の重点 ～初期対応と未然防止の両輪～



①初期対応力の強化

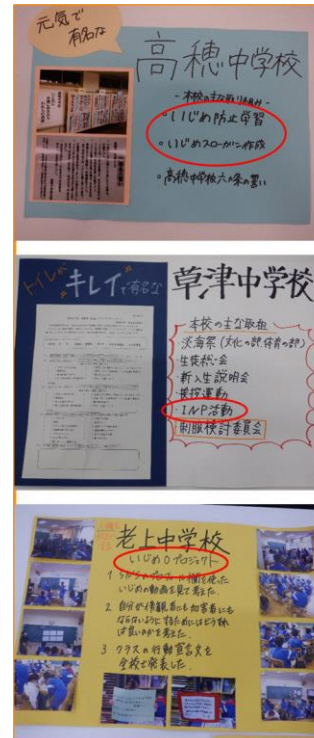
⇒草津市いじめ対応マニュアル改訂版（いじめ対応の留意点を追記 ※別紙）の作成、周知および浸透
生徒指導主事主任会で伝達し、各校の校内研修等で全職員へ周知

討議の柱②について

< 8月 > 令和4年度第1回草津市子どもサミット

○ 8 / 17 (水)、第1回草津市子どもサミットを開催

- 市内中学校の代表生徒と教員が集まり、それぞれ学校の取組を紹介しながら情報交換を行い、**安心、安全で魅力ある学校づくりに向け、大切なことは何かを議論した。**



○ 当日の取り組み

- * 参加者→各中学校の代表生徒2名
および各中学校生徒会担当教員1名
- ・ 自校の取り組み紹介
- ・ グループ別協議
- ・ 全体会
(グループで協議した内容を発表)
- ・ 参加教員による協議内容の発表

取り組み紹介時のポスター

○ いじめ防止の取り組み

- ・ 各校で行われている取り組みについて発表 → **参加6校すべていじめ防止の取り組みを行っている**
- ・ 各校の取り組み内容についてグループで協議
→ **各校独自のいじめ防止の取り組みの交流、および各校に持ち帰り、自校の取り組みに生かす**



次年度の重点 ～初期対応と未然防止の両輪～



② 子どもの主体性のさらなる向上（未然防止）に向けて

⇒ 草津市子どもサミットの継続、充実

機会の設定

⇒ 教員間の児童生徒主体の取組の交流（生徒指導主事主任会や
グレードアップ連絡会）

・・・子ども裁量で取り組める場面の創造につなげる

**教員の
サポート**



いじめの未然防止には、児童生徒自らがいじめの問題について考え議論する活動や、命の大切さを呼びかける活動など児童生徒自身による主体的な活動が重要である。

子ども主体の取組の意義

子どもたちによる安心、安全で魅力ある学校づくりの推進



安心感

楽しい

自己有用感

相互理解

コミュニケーション



結果的に、いじめの減少につながる

ありがとうございました